

# Related Newspaper Articles



海事プレス 2010年9月14日(火曜日)

## 名古屋で125周年記念式典

国際航路協会、41カ国から約700人参加

世界の航路や港湾に関する技術的な調査研究などを行う国際機関として今年、設立125周年を迎えた国際航路協会(PIANC)は12日、名古屋市内のホテルでアジア地区記念式典を開催した。式典には、日本をはじめ、米国やベトナムなど41カ国から約700人が参加した。また、11日に名古屋入りされ、式典に出席された皇太子さまは「この記念事業を通じ、アジア各国の港湾

関係者の相互理解と友好がさらに深まるとともに、国際的な水運の取り組みが世界の発展に貢献することを願います」とあいさつされた。

同日の式典では前原誠司国交相が開会のあいさつを行うとともに、神田真秋・愛知県知事と河村たかし・名古屋市長がそれぞれ歓迎あいさつを行った。名古屋港管理組合の管理者でもある河村市長は「名古屋港は輸出入双方でモノの流れを増加

させる国際産業ハブ港の形成を目指しており、PIANCの皆さんには名古屋港の国際的な物流強化に向け、今後とも支援、協力をいただきますようお願いいたします」と述べた。その後、PIANCのエリック・ヴァン・デネーデ会長が125年の歴史を振り返るスピーチを行った。

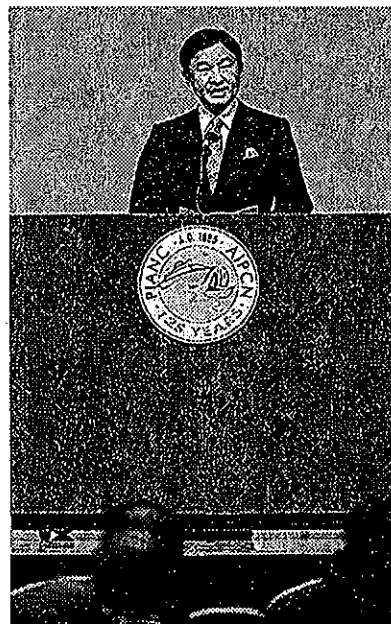
式典終了後、同日午後と13日午前の2日間にわたり、国際セミナーが開催され、「沿岸・内陸水運と地域振興」と「浚渫と環境」の2つのテーマをめぐって関係者による発表と討論が行われた。

# 皇太子さま「着実な歩み期待」

## 国際航路協会が 125周年記念式典 名古屋

水上交通の維持と発展に取り組む国際機関「国際航路協会」のアジア地区百二十五周年記念式典が十二日、名古屋市の西区のホテルであり、来賓中の皇太子

さまが出席された。同協会は一八八五年に設立され、日本は一



九〇八年から参加。七八年と二〇〇四年には、それぞれ東京と福岡で総会が開かれている。式典では、皇太子さ

まが「輸送の革新や環境問題への取り組みを通じて国際的に連携することにより、国際航路協会がその目的に向かってさらに着実な歩みを続けていくことを期待しています」とお

国際航路協会アジア地区125周年記念式典で、あいさつされる皇太子さま。名古屋市の西区のホテルで

いさつ。同協会のエリック・ヴァン・デネーデ会長は「百二十五周年記念イベントを、日本は美しく重要な都市である名古屋で開催すべく手を挙げてくれた」と謝意を述べた。

記念事業は十四日まであり、水運と地域振興、環境などを題材としたセミナーなどが行われる。

中日スポーツ 2010年9月13日(月曜日)

国際航路協会創立125周年記念式典であいさつされる皇太子さま。名古屋市の西区のウェスティンホテルで



「国際的連携を皇太子さま式典であいさつ」  
皇太子さまは12日、名古屋市のホテルで開かれた国際航路協会の創立125周年記念式典に出席し、あいさつされた。

ことで、協会がさらに着実な歩みを続けていくことを期待します」とスピーチした。協会は航路や港湾に関する技術的な課題を研究するための国際機関で、式典には米国やベトナムなど約40カ国から約700人が参加。14日までセミナーや港湾視察などの記念事業を行う。皇太子さまは式典後、水運と地域振興をテーマにしたセミナーを聴き、12日午後には帰京した。



■皇太子さまが式典出席

皇太子さまは12日、名古屋市のホテルで開かれた「国際航路協会アジア地区125周年記念式典」に出席した。港湾、航路の発展や技術協力を目指す非営利の国際機関で、約40カ国から約700人が参加した。

皇太子さまは河川と人とのかわりや水上交通に関心が高い。この日は式典であいさつした。写真のほか、「沿岸・内陸水運と地域振興」を議論する国際セミナーにも出席し、東南アジアを流れるメコン川の水運や交易に力を合わせている流域諸国の発表に熱心に耳を傾けた。

★皇太子さまが帰京

愛知県入りしていた皇太子さまは12日、名古屋市内のホテルで開かれた「国際航路協会アジア地区百二十五周年記念事業」の式典に出席し、同日午後、帰京された。

同協会は港湾や航路の発展のため活動する国際機関で、ベルギーに本部がある。皇太子さまは、水運の研究に取り組み、環境や衛生分野を含めた「水の問題」にも関心を深めている立場から、今回の記念式典に出席した。式典後のセミナーでは、メコン川の水運をテーマにベトナムやカンボジアからの参加者が最新事情を発表。皇太子さまは熱心に聴講した。

◆国際航路式典に出席

皇太子さまは12日、名古屋市のホテルで開かれた国際航路協会アジア地区125周年記念式典に出席した。

皇太子さまは式典で「海と水路で結ばれた世界各国のみならず、輸送の革新や環境問題への取り組みを通じて国際的に連携することにより、国際航路協会がその目的に向かってさらに着実な歩みが続けていくことを期待しております」と述べた。

# 中部経済新聞

THE MID-JAPAN ECONOMIST

2010年(平成22年)

9 / 14

火曜日(日刊)

◎ 第21478号

○ 中部経済新聞社2010

国際的な港湾関係者の友好の輪を広げよう。

港湾・航路の調査研究や、開発途上国への技術援助などを行う国際航路協会(PIANK)は12、14日、ウエストインナゴヤキャッスル(名古屋市西区)と名古屋港湾会館(名古屋港区)で「125

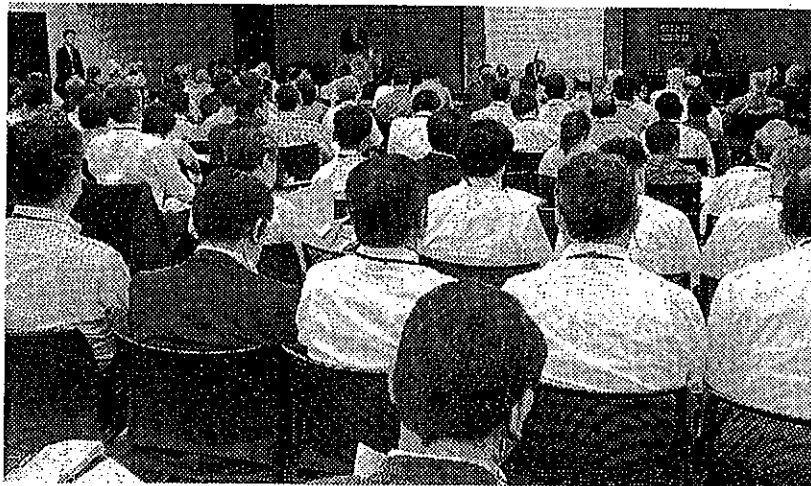
## 国際航路協

周年記念事業」を開催、式典やセミナーなどを実施している。

12日の式典には、前原誠司・国土交通大臣や神田真秋・愛知県知事ら、日本、中国、ベトナムなど計41カ国の政府関係者ら、約700人が出席した。皇太子さまもご臨席された。

## 国際機関の認知度向上を

各関係者から 名古屋で125周年式典



皇太子さまは「記念事業を通じて、アジア各国の港湾関係者の相互理解と友好が深まるとともに、国際的な水運の取り組みが世界の発展に貢献

また、PIANKのエリツク・ヴァン・デネーデ会長は「水上交通インフラの国際機

関として、認知度と影響力を向上していきたい」と抱負を述べた。

12日と13日のセミナーでは、各国の研究者らを講師に、アジア諸国における水運の重要性を知る「沿岸・内陸水運と地域振興」などをテーマとした意見交換が行われた。

各国の関係者らは14日、名古屋港や名古屋城などを視察する。

13日に名古屋港湾会館で開催したセミナーの風景